

縄文遺跡に縄文杉はない

去年、青森山内丸山遺跡に行ってきた。何となく懐かしいような、既視感のある風景だ。どこかで見た気がすると思ったら、新潟で遺跡のある新津丘陵、長岡丘陵に似ている。丘陵なのだ。

古代から人が住み着いているという事はそこが過ごしやすい場所だからだ。居住地としてふさわしくない所は、危険な場所だろう。地震や雷は日本列島どこにいても避けられないとして、最大の危険は洪水だ。特に縄文時代は現代より温暖の為、世界中で海面が高かったという。青森は新潟以上に潟が多い。十三湖が有名だ。現代の平地は皆低湿地だった。これは越後平野も同様だ。新潟の潟は多くが干拓され水田に変わった。青森の場合より北方なので水田化は遅れた。稲はもともと温かいところのものだ。日本では品種改良によって冷害に強い品種を

作り出していった。

この山内丸山遺跡では大きな木が少ない。はつきり確かめたわけではないが、せいぜい30センチくらいの落葉広葉樹の雑木が多い。おそらく繰り返し伐採を受けた結果だろう。これは新津や長岡の丘陵も同じだ。將軍杉や大王杉などと言われる大きな木のある場所は、人の生活歴の浅い山の奥の方になる。

つまり山の林相は人の歴史を表している。木は燃料、家の材料、船の材料、農耕具から生活の什器備品に至るまで利用されてきた。縄文時代では、木の産する実に主な炭水化物を依存して来た。3大栄養素の内、炭水化物が人のエネルギー最大の源だ。

近世ではこの古代の生活域が里山となっている。水田稲作の普及とともに、人は山を降りそのふもとで生活してき

た。里山は居住の場ではなく、様々な生活資源の供給場所となった。さらに水田稲作の普及と河川の治水により丘陵地から生活域は離れていった。

農業の導入、農業革命は人類史にとって最大のイノベーションだ。それは人口を見ればわかる。日本では弥生時代に水田稲作が普及し、多くの人口を養う事が出来るようになった。最近縄文時代も農耕があったという説も唱えられているが、そうであっても生産力としては小さなものだっただろう。日本の水田稲作は弥生人が外から持ち込んだものだ。

水田稲作はシステムなので、米が持ち込まれただけでは始まらない。田を作らなければ水稲はできない。今でも米を作ると言わず、田を作ると言う。米は田が作るものなのだ。そのため、米は作り手

と一緒に渡ってきたと考えるのが自然だ。それは低湿地を多く抱える日本には最適な作物だった。「豊葦原瑞穂の国」とはこのころの日本の美称だ。葦が豊かに茂り、稲が実る国という意味だ。

後世で葦原と言えば不毛のイメージだが、葦はつい最近まで家の建築資材として貴重なものであった。信濃川河口ではこの葦を新潟町と沼垂町で争った記録もある。また葦のあるところには水があり、有機物の多い土のあるところで水田の適地だ。またこのような日本の多くの低所の土壌はグライ土と言い、酸素の少ない粘土質で畑作には不向きなものだ。

農業革命といえは三大穀物として、麦、米、トウモロコシがある。麦はメソポタミア、チグリスユーフラテス川流域で、

代表取締役社長

鈴木英介



米は中国長江流域で、いずれも今から1万年前に、トウモロコシは中米で7千年前に始まったと言われる。農耕の開始により、人類は多くの人口を養えるようになった。私たちは歴史の中で様々な発明を行い、イノベーションを遂行し、歴史を変えてきた。その中で最も重要なものが、農業の発明である事は多くの人の一致するところだろう。

しかしこの時、人々は素晴らしい発明をなしたと考えただろうか。私は違うと思う。やむを得ず、次善の策として穀物の栽培を選ばざるを得なかったのだと思う。

それまではどのような物を食していたかといえば、木の実である。それに対して麦、米、トウモロコシは草の実だ。麦や米は穂から落ちやすく、粒も今より小さい物だった。トウモロコシの原種はまだ発見されていないが、イネ科なのではるかに小さいものだっただろう。

木の実を食べていた人に、これからは草の実を食えと言ったら、きつと気を悪くするだろう。だいたいうまくいかなかったら、そのようなもので命を繋げるとは信じがたい気持ちだったのではないだろうか。人々は木の実を食べ尽くし、せつ

ばつまって草の実を口にしたのだと思う。それが文明の発祥地での、現代の貧しい自然環境に現れているのではないだろうか。さらに文明が継続すると過耕作で砂漠化し、塩が地表に現れ砂漠になったところも多い。

イノベーションとはバラ色の未来ではない。人がその生活様式を変えるのはやむを得ぬ選択なのだ。また新しい技術、新しい生活様式は当初、最も劣ったものとして現れる。人の価値観は過去の継続こそ是とするものである。それを半ば強引に変えざるを得ない時がある。

農耕の発生が世界の異なる場所ではほぼ同時に起こっている事。裸のサル、ホモサピエンスが長年住み慣れた楽園、アフリカ大陸を一齐に飛び出し寒冷の地にまで至った事。いずれもやむを得ぬ理由があったのだと思う。

山内丸山遺跡に立ち、私たち人類は今、歴史の転換点に立っているのではないかと思う。温暖化は進行し、砂漠化も進行している。オゾン層は壊れつつあり、さらに危険な核が世界中に蓄積されている。

未来の人類に、私たちがより良いものを残せば幸いであると思う。